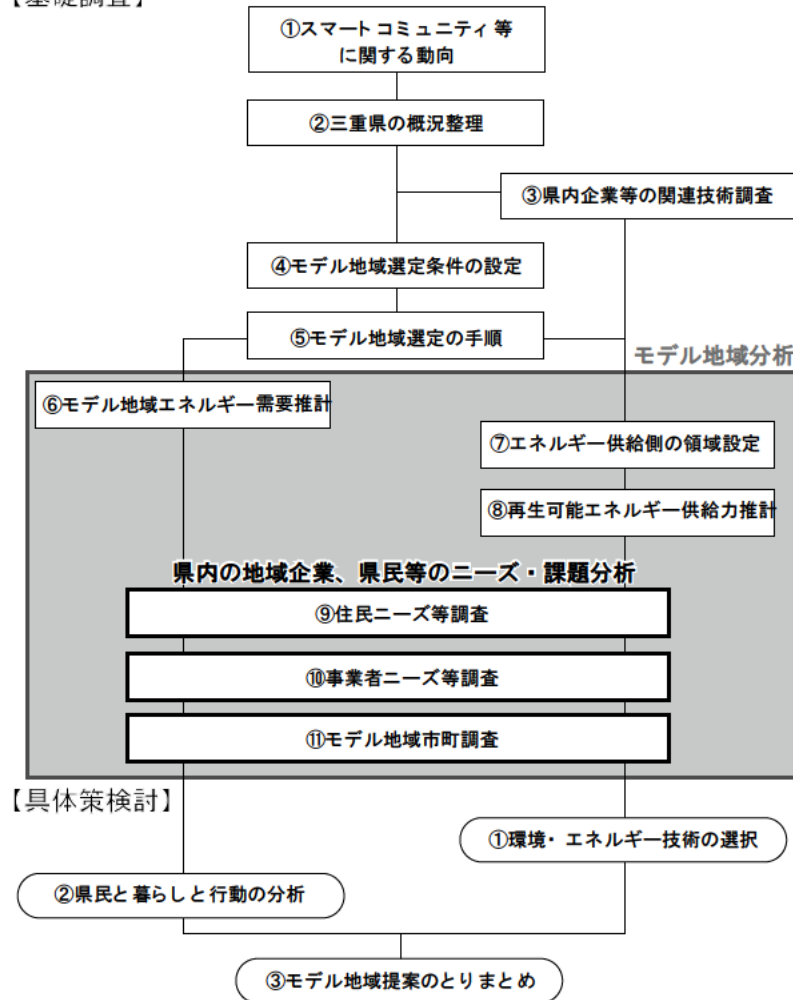


みえスマートライフ推進事業の検討にかかる基礎調査

＜主に生活サイド（ソフト） スマートライフ 主に技術サイド（ハード）＞

【基礎調査】



◆県内の地域企業、県民等のニーズ・課題分析

⑨住民ニーズ等調査

【調査項目案】 再生可能エネルギー・省エネ設備等の利用実態と関心度 / 同設備・技術に関して知りたいこと / 地域での再生可能エネルギー活用に対する期待 / BEMSや節電アグリゲーター等に対する期待と関心度 / 日常生活実態 / 地域生活上の課題・ニーズ / スマートライフ推進施策(プロジェクト)案に対する評価など (最大20問程度)

【対象者】 モデル地域1ヶ所あたり最大1,000サンプル配布目標(3～4割回収想定)、年代を考慮した無作為抽出

⑩事業者ニーズ等調査

a. 経済団体調査

モデル地域の商工会・商工会議所、農協、森林組合、漁協等に対し、関連産業との連繋可能性をヒアリング

b. 事業所調査

【調査項目案】 事業所の主な業務形態(店舗、事務所、工場等) / 再生可能エネルギー・省エネ設備等の利用実態と関心度 / BEMSや節電アグリゲーター等に対する期待と関心度 / 環境・エネルギー関連分野への新規参入に対する関心度・参入構想の有無 / スマートライフ推進施策(プロジェクト)案に対する評価など (最大20問程度)

【対象者】 県全体2,000サンプル配布目標(2～3割回収想定)、経済センサスデータの活用を想定

⑪モデル地域市町調査

後述する分科会の開催に合わせて、モデル地域所在の市町と打合せ、意見交換を行い、地域課題や現状等を把握

具体策検討のポイント

- モデル地域の特性を踏まえた、現実的な環境・エネルギー技術の選択
- 県民の暮らしと行動を踏まえたスマートライフ推進策
 - ✓ 主体(県民)の構成単位を踏まえた具体策の検討
 - ✓ 集住の知恵を活かした“協創”による

①“環境・エネルギー技術の選択”に際しての留意点

導入する技術(主に、エネルギー地産地消技術や設備)の選択に当たっては、下記の点に留意します。

- 地理的制約(立地環境に関わらず利用可能な技術、モデル地域ごとの環境に適した技術)の適切な選択
- 技術開発レベル(既に普及段階にある技術 → 実用段階にあるものの普及速度が緩やかな技術 → 研究や実証段階にある技術)に応じた現実的な技術選択
- 基礎調査における「③県内企業等の関連技術調査」等を通じて明らかにする、県内事業者等の技術を優先選択

また、エネルギーマネジメントシステムを支える、スマートインフラやICT技術を多面的に活用し、地域の様々な課題解決に役立てていく方策についても検討します。

②“県民と暮らしと行動の分析”の視点

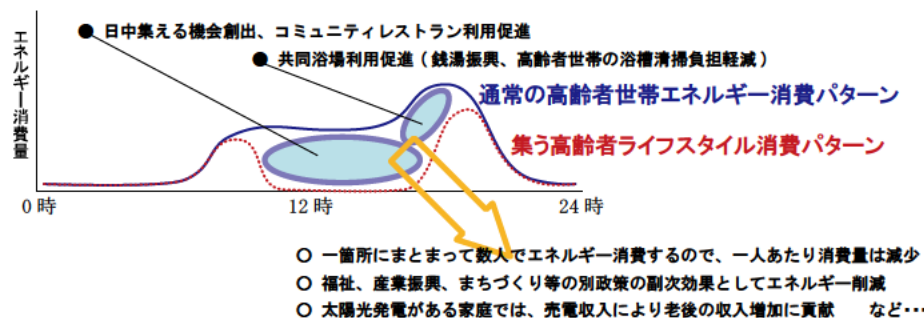
a. 主体の構成単位

県民と一口に言っても、下表のように社会構成単位の変化により出来ること、出来ないこと、果たせる役割、対応策は大きく異なります。そのため、主体の構成単位に応じた対策を検討します。

社会構成単位	効率的なエネルギー地産地消にかかる対策例
集団 (コミュニティ、NPO)	市民共同発電所、クールシェルター、コミュニティキッチン・カフェ、銭湯、共同作業の実践
家族(世帯)	創エネ・省エネ機器等の導入、省エネ住宅改修
個(ひとり)	行動の省エネ、学習会等への参加

b. 集住と協創がもたらすスマートライフ

基礎調査における「⑨住民ニーズ等調査」などを用いながら、個の対応によるエネルギー消費の効率化のみならず、集団で過ごすことによる省エネ策も検討します。夏の電力ピークカット対策として話題になったクールシェルター(まちなか避暑地)は、この具体的な取り組み例と言えます。



スマートライフ推進策の検討にかかる体制とスケジュール

◆検討の体制

①推進協議会

幸福実感度の向上に資するライフスタイルの実現を目指しつつ、参加事業者にとってのビジネスチャンスを生み出す推進母体。

②企画・運営委員会

【想定メンバー】新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議の「スマートライフ推進協創プロジェクト」のメンバーを核に構成。

回数	時期	議題
第1回	10月31日	取組み方針等の説明・検討
第2回	12月中旬	モデル地域進捗状況等の途中報告、推進に向けたアイデアの検討
第3回	3月上旬	今年度のとりまとめ案、来年度の方針検討

③地域モデル検討部会

地域特性・資源を踏まえて、環境・エネルギー技術等を活用したスマートライフの地域モデルを検討・提案する。

【想定メンバー】協議会メンバーの中で、地域個別プロジェクトに関わりのある企業及び地域プロジェクト関係者など。

④地域プロジェクト検討会

具体的なフィールド(3か所のモデル地域)において、効率的なエネルギー地産地消のみならず、地域課題の解決にも寄与するスマートライフ推進策を現場目線で検討する。

【想定メンバー】地元の市町、経済団体(商工会議所・商工会、農協、森林組合、漁協等)、町内会・集落等のコミュニティ組織、市民団体(環境活動団体、生活関連団体等)、地元小中学校、エリア内在住の新エネサポーターなど。

◆スケジュール案

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基礎調査							
①スマートコミュニティ等に関する動向	←→						
②三重県の概況整理	←→						
③県内企業等の関連技術調査			←→				
④モデル地域選定条件の設定	←→						
⑤モデル地域選定の手順	←→						
⑥モデル地域エネルギー需要推計			←→				
⑦エネルギー供給側の領域設定			←→				
⑧再生可能エネルギー供給力推計			←→				
⑨住民ニーズ等調査			←→				
⑩事業者ニーズ等調査			←→				
⑪モデル地域市町調査			←→				
具体策検討							
①環境・エネルギー技術の選択				←→			
②県民と暮らしと行動の分析				←→			
③モデル地域提案のとりまとめ				←→			
検討体制(会議等)							
推進協議会		●					
企画・運営委員会		●		●			●
地域モデル検討部会						●	
地域プロジェクト検討会 (×3モデル地域)			●	●	●		